●●●2021年1月～3月期　栃木県中小企業景況調査(167回)●●●

【栃木県ＤＩ指数天気図】

今期(県内全体)の業況

ＤＩ値
-42．7
※全国　-29.5

point!

県内全体の業況（DI値）は、2020年４-6月期を底に回復基調にあったものの、1月に再発令された緊急事態宣言等の影響により-7.5ポイントの悪化となった。製造業、建設業は回復基調にあるものの、小売業は前期より-39.1ポイント下落し-62.2ポイントと大幅に悪化した。全国と比較すると、13.2ポイント低く、厳しい状況が続いている。

来期は建設業を除いて大幅に改善する見通しで、県内全体の業況は11.5ポイントの上昇を見込んでいるものの、新型コロナウイルス感染症の影響は続くとみられ、予断を許さない状況である。

～天気図の指標～

現　状	良　い	やや良い	やや悪い	悪　い	とても悪い
天気図					
ＤＩ値	15.1～	15～0.1	0～-15	-15.1～-40	-40.1～

業種＼項目	今期(全体)	売上額	仕入単価※	採算	資金繰り	来期予想(全体)
製造業						
ＤＩ値	-31.3	-56.6	24.2	-62.1	-44.8	-13.1
業　況：全項目が低水準ながらも改善傾向、来期も大幅な改善見込み						(↗)
建設業						
ＤＩ値	-21.4	-35.0	40.0	-15.0	-20.0	-23.3
業　況：前期から7.1ポイント改善も来期は1.9ポイント悪化の見込みで業況は停滞気味						(→)
小売業						
ＤＩ値	-62.2	-57.5	5.0	-47.5	-32.5	-38.0
業　況：売上、資金繰りが悪化し、全体として-39.1ポイントの大幅悪化						(↑)
サービス業						
ＤＩ値	-51.6	-71.6	16.6	-56.6	-40.7	-46.0
業　況：売上、資金繰りが大幅悪化、来期は＋5.6ポイント改善するも業況は低水準で推移						(↗)

※仕入単価はプラスになるほど悪化となります

【経営上の問題点】

製造業

第1位：　需要の停滞（39.2%）

第2位：　生産設備の不足･老朽化（13.5%）

第3位：　製品ニーズの変化への対応（10.8%）

小売業

第1位：　需要の停滞（24.6%）

第2位：　消費者ニーズの変化への対応(21.1%)

第3位：　大･中型店の進出による競争の激化（10.5%）

建設業

第1位：　従業員の確保難(29.4%)

第2位：　民間需要の停滞(29.4%)

第3位：　官公需要の停滞(8.8%)

サービス業

第1位：　需要の停滞（38.9%）

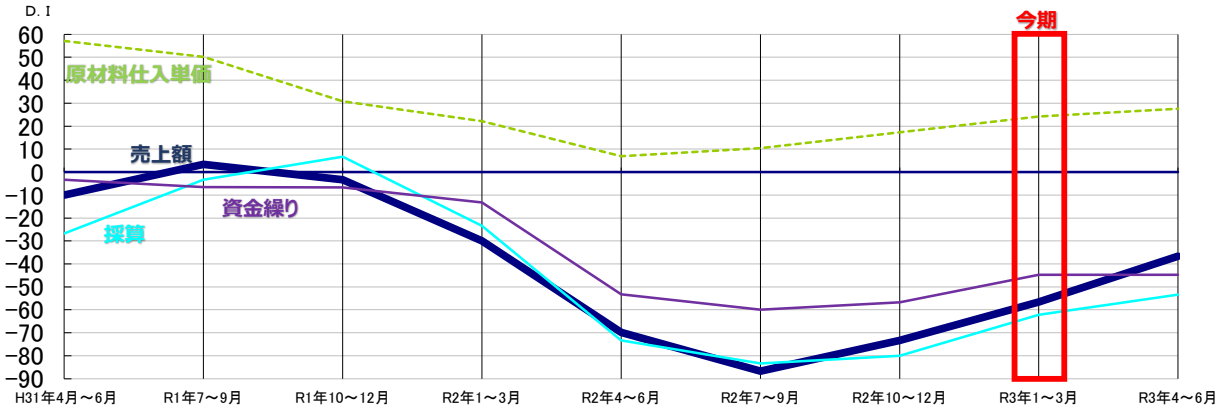
第2位：　利用者ニーズの変化への対応（17.8%）

第3位：　従業員の確保難（6.7%）

－主要景況項目の推移－

製造業

「売上額、採算等の超低水準続くも改善傾向」

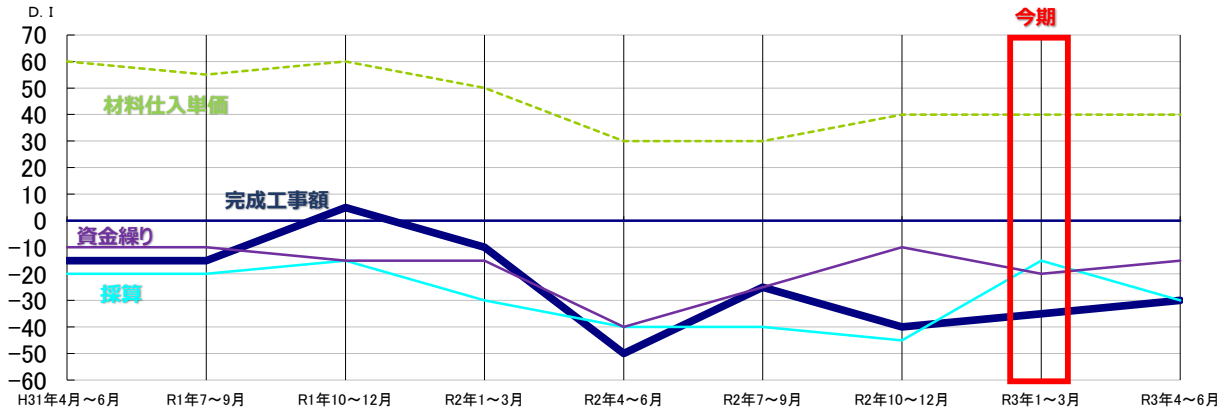


「売上額」は16.7ポイント(-73.3→-56.6）、**「採算」**は17.9ポイント(-80.0→-62.1）、**「資金繰り」**も11.9ポイント（-56.7→-44.8）と３項目において大幅に回復したものの依然、低水準で推移している。来期においては、**「資金繰り」**が横ばいとなるものの、**「売上額」**が19.9ポイント(-56.6→-36.7）、**「採算」**が8.7ポイント(-62.1→-53.4)と改善傾向が続く見込みである。

「原材料仕入単価」は上昇傾向で6.9ポイント（17.3→24.2）悪化、来期も引き続き上昇（24.2→27.6）すると見込まれる。

建設業

「完成工事額（売上額）は改善傾向にあるものの不安定な状態が続く」

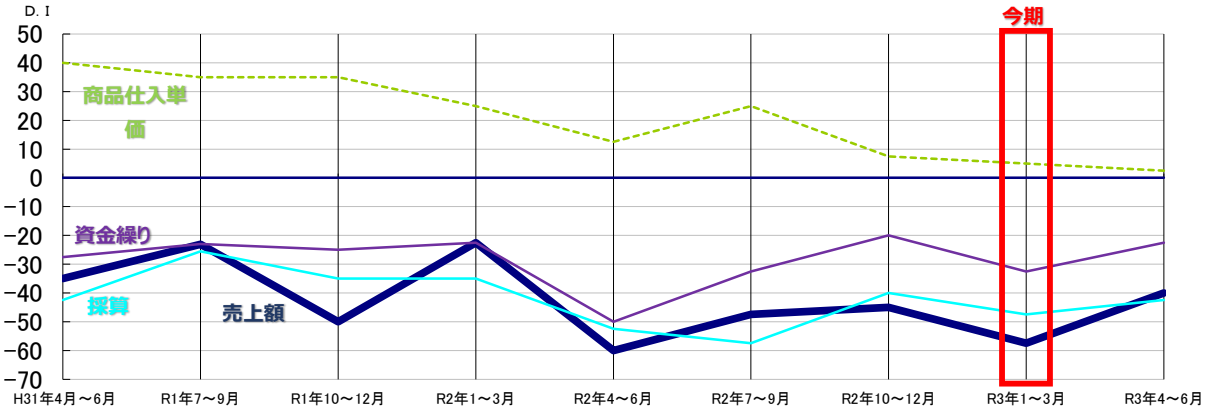


「完成工事額（売上額）」は5.0ポイント（-40.0→-35.0）、来期も5.0ポイント（-35.0→-30.0）と小幅ながらも改善傾向にある。**「採算」**は大幅に改善（-45.0→-15.0）したものの来期は再び悪化（-15.0→-30.0）、**「資金繰り」**は-10.0ポイント（-10.0→-20.0）と悪化したものの、来期は再び改善（-20.0→-15.0）と不安定な状態が続いている。

「材料仕入単価」は40.0ポイントで横ばい、来期も同値となる見込みである。

小売業

「売上額、採算、資金繰りで大幅悪化も、来期は改善見込み」

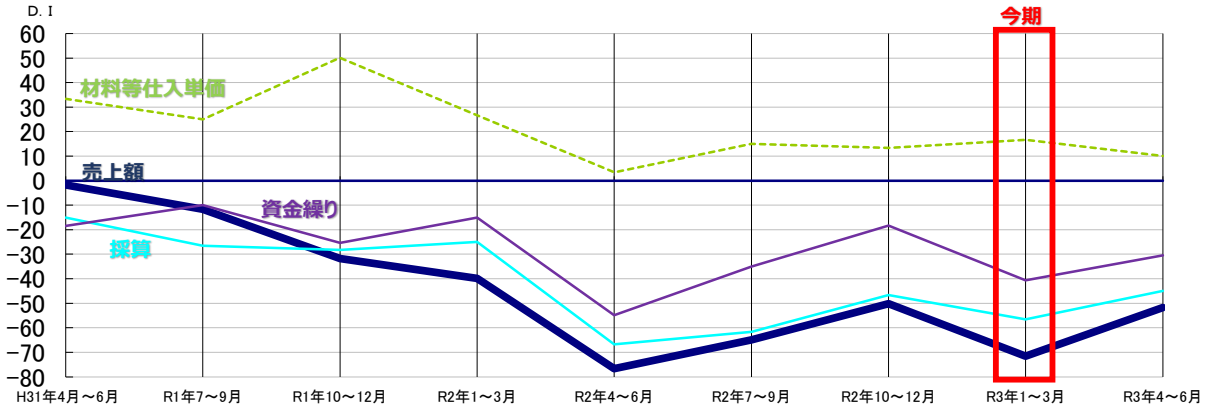


これまで改善傾向にあったものの**「売上額」**は-12.5ポイント（-45.0→-57.5）、**「採算」**は-7.5ポイント(-40.0→-47.5)、**「資金繰り」**は-12.5ポイント(-20.0→-32.5)と再び大幅悪化となった。来期は**「売上額」**が17.5ポイント（-57.5→-47.5）、**「採算」**が5.0ポイント（-47.5→-42.5）、**「資金繰り」**が10.0ポイント（-32.5→-22.5）改善見込みであるが、新型コロナウイルス感染症の影響は続くとみられ、予断を許さない状況である。

「商品仕入単価」は2.5ポイント(7.5→5.0)と改善、来期も同値（5.0→2.5）の改善が見込まれる。

サービス業

「小売業同様大幅な悪化も、来期は改善見込み」



R2年4～6月期を底に改善傾向にあったものの、再発令された緊急事態宣言等の影響もあり、**「売上額」**は-21.5ポイント(-50.1→-71.6)、**「採算」**は-10.0ポイント(-46.6→-56.6)、**「資金繰り」**は-22.4ポイント(-18.3→-40.7)といずれも大幅な悪化となった。来期は、小売業同様、改善見込み（**「売上額」**19.9ポイント、**「採算」**11.6ポイント、**「資金繰り」**10.2ポイント）であるが、新型コロナウイルス感染症の影響がカギを握る。

「材料等仕入単価」は今期3.3ポイント(13.3→16.6)上昇、来期は6.6ポイント（16.6→10.0）の低下とほぼ変動がなく停滞が見込まれる。

調査要領

○調査の目的

中小企業景況調査は、全国の商工会地区に地域経済観測点を設置し、地域の産業の状況や経済動向等について、一定時期ごとに変化の実態諸情報を迅速かつ的確に収集・提供して、経営改善普及事業の効果的実施に資するものとする。本報告書は、栃木県内商工会地区における、「製造業」「建設業」「小売業」「サービス業」の４業種を、主要景況項目(売上額・原材料仕入単価・採算・資金繰り)から分析し、景況情報をまとめたものである。

○調査対象地区（栃木県商工会地区）

粟　野・にのみや・石　橋・桑　絹・大 平 町

岩 舟 町・塩 谷 町・高根沢町・那須烏山・足利市坂西

○調査時点

2021 年 3 月 1 日

○調査対象期間

2021年１月～３月期の実績及び、2021年４月～６月期の見通しについて調査

○調査方法

商工会の経営指導員による訪問調査

○回答企業数内訳

業　種	回答企業数	構成比(%)
製 造 業	30	20.0%
建 設 業	20	13.3%
小 売 業	40	26.7%
サービス業	60	40.0%
合　計	150	100.0%

※ＤＩ指数とは

報告書に登場するＤＩ値とは、ディフュージョン・インデックス(Diffusion Index　＝ 景気動向指数)の略であり、各調査項目についての増加(上昇・好転)企業割合から減少(低下・悪化)企業割合を差し引いた値を示すものである。

ＤＩ値がプラスのときは業況の好転、マイナスのときは業況の悪化を示すことから、景気の動向を判断する指数として利用される。また、ＤＩ値は強気・弱気など、景況感の相対的な広がりを示すものであり、売上額などの実数値の上昇率とは異なる。

たとえば、今期の売上額を前年同期と比較した結果、増加企業が５０％、不変企業が３０％、減少企業が２０％となったとすると、ＤＩ値は５０－２０＝３０となり、売上額に対して強気の度合いを示している。

次の100年も・・・ここに商工会

編　集：栃木県商工会連合会　経営の見える課

発行所：栃木県商工会連合会　栃木県宇都宮市中央3丁目1番4

TEL 028-637-3731・FAX 028-637-2875